

【企業×地域の共創 中山間地域の未来】



「地域の皆様と一緒に、新たな価値の創造へ挑戦」



総合建設コンサルタントの株式会社オリエンタルコンサルタンツ(代表取締役社長:野崎秀博)は、このほど浜松市天竜区佐久間町で「佐久間の食文化を誇り愛おう 出張さくマルシェ(主催:佐久間と天竜川流域の未来プロジェクト)」の運営支援を行った。会場では、町内での伝統食を中心に振る舞うマルシェや、トークイベントが行われ、地域内外からの参加者を楽しませた。トークイベントでは、浜松山奥いざいさ応援隊と地元観光旅館が共同開発した「鮎のオイル漬け」の開発秘話や、静岡文化芸術大学の学生が取り組む地域振興策としてそはを使った地域ネットワークの提案などについて意見交換が行われ、鮎の出汁とそばの新たなコラボレーションの可能性にも話題が及んだ。オリエンタルコンサルタンツは、社会課題の解決に向けて新たな価値を提供し続ける「社会価値創造企業」を目指しており、今回は、佐久間町内で守られてきた食文化を改めて見直し、参加者の皆様の新たな地域の価値に気づきの機会になればとの思いを決めて企画・運営支援にあたった。



東京葛飾区本町3-12-1 住友不動産新館ビル6号室



た。同社中部支社に勤務しながら、自らも愛知県北設楽郡設楽町との二拠点生活で地域貢献に取り組んでいる空(そら)かおりさんは、「先人から伝承されてきた佐久間の資源に新たな価値を発見・創造している皆様の情熱に強く感銘しました。佐久間の皆様の情熱が大魚川の流れのように流域へと広がっていくように、私たちも地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。」と語った。

「地域資源を活かし、にぎわい創りへ」



静岡ガスコム株式会社

静岡県浜松市中央区 浜北1-66-13



ガス器具販売の特約ガスコムは昨年、秋葉店などを販売する店舗「ほうえいさん」を、天竜区佐久間町蒲川のグループ会社富栄産業事務所内に開業した。住民の良い物や悪いの境を作り、地域のにぎわい創出を目指して営業した。さんべいやチョコレート、アイスクリームなどに加え、豊橋や浜松で人気のうどんやカレーなど食品も取り扱っている。開業からおよそ1年が経ち、地元の方たちも高齢者らに親しまれている。同社の浅野孝昭社長は、「この地域にはまだまだポテンシャルがある。地域のみなさんと一緒ににぎわいを創り出したいと意気込む。昨年、行志の企業や学生と立ち上げた団体「シン・サクム計画」では今年、沼津の河川駅に絵を描くアートプロジェクトも計画しているという。地域の思い出の場所が、立地を超えた様々な人々の力でよみがえらせる取り組みに期待が高まる。

「ウェルビーイングな社会へ 地域の安心を支える」



住友生命



浜松支社 北遠支部 静岡県浜松市天竜区 佐久間町年久岡429-1

住友生命保険相互会社は、事業を通じて「一人ひとりのよりよく生きる=ウェルビーイング」に貢献し、なくてはならない生命保険会社を目指している。中でも浜松支社北遠支部の役割は大きい。地域住民の多くが高齢者。昨今はインターネット保険が主流になりつつあるが、この地域では対面のニーズは依然高い。支店の存在そのものがお客さまの安心感につながっているようだ。部長の伊藤美恵子さんは、「お客さまとは家族のような関係。私生活の相談や、時には他社のインターネット保険の相談を受けるともありますと笑顔を見せる。

また、過疎地域ならではの側面もある。地域内で生活する職員が多く、行事にも積極的に参加している。当然ほとんどの住民が親しみやすいため、日常の行動が会社の印象に直結する。だからこそ、会社の看板を背負って真摯に仕事に取り組む職員と、お客さまとの間に強い絆が生まれるのかもしれない。伊藤所長は「長くお世話になっているお客さまに、これからも恩返ししていきたい。地域に必要とされ、やりがいのある仕事なので、一緒に働いてくれる職員も増やしていきたい」と意気込む。

「命を守り 持続可能な社会を創る」



環境のリーディングカンパニー

中村建設株式会社



静岡県浜松市中央区 春日町71-23

本業以外の地域貢献にも力を入れる。清作放棄地を活用した米作りでは、地元農業生産者と連携し、社員自らが米の生産に取り組み、まさに「買一人一人が本気で考え、行動し、地域社会に貢献する。」なかがけ「サステナビリティ」の実現を目指す。

本業以外の地域貢献にも力を入れる。清作放棄地を活用した米作りでは、地元農業生産者と連携し、社員自らが米の生産に取り組み、まさに「買一人一人が本気で考え、行動し、地域社会に貢献する。」なかがけ「サステナビリティ」の実現を目指す。

「天竜材木町の面影 後世に残す」



静岡県浜松市浜北区 浜北70-6



浜松市天竜区横山町にある築120年の古民家「青山亭」は、浜名湖株式会社(鈴木滋男会長)が古亭から譲り受け、修繕された。この青山亭は、天保から幕末にかけて火災で消失した江戸城再建のため膨大な量の木材を納めた青山家の邸宅だ。天竜美林の歴史を象徴する建物だが、住む人がいなくなれば朽ち果ててしまうかもしれない。貴重な地域の財源を守りたいと、同社が解凍を買って青山亭は予約制で見学も可能。会費別名も求めたという風格ある邸宅は「見の価値ありだ。

国土の8割が森林といわれる日本において、空き家や放棄山、災害対策など中山間地域が抱える課題の重要性は高い一方で、自治体においては人口比から積極的な対策が難しい現状がある。そんな中、企業による中山間地域支援の取り組みが広がりを見せている。収益性を追求すべき企業にとっては「一見合理的」とは言えない活動だが、なぜ今企業がこのような地域支援に取り組むのか、各社の事例からその背景を紐解きたい。

企画:静岡新聞天竜総編集局浜松ビジネスセンター

新たな働き方で地域資源を活用 「#ダム際ワーキング」の取り組み



column

テレワークや在宅勤務が進む中、新たな働き方が注目されている。その名も「#ダム際ワーキングだ」。ダムの近くで働くことで、より楽しく、新たな発想が生まれたりという効果が期待されている。天竜区佐久間町では今年度、企業の経営者や人事担当者を対象にした研修プログラム「#ダム際ワーキング勉強会サマナー」が開催され、全国から参加者が集まった。ツアラーは浜松市立浜松北高校佐久間分校の生徒を受けた合同学習や、佐久間ダムの見学が行われ、中山間地域の資源が「学び」という観点で活用されることを実現した。佐久間町内では、今後もワーケーションや企業研修のフィールドとして企業を受け入れるため、地域住民が主体となって受け入れ体制の整備を進めるという。

訪日外国人が目指す日本の伝統・文化 中山間地域にこそ商機あり!

コロナが収束に向かい、海外からの訪日客も戻り始まりました。この流れで、ディープな体験が求められています。100年以上続く工場の醤油作り体験や職人が働く工房での染め体験、通訳ガイドによる丁寧な解説付きで、日本人には少しおもしろく感じられる場所でも、ここならではの味・色・香りの体験が目的地となっています。コロナ前、静岡の中山間地域でも訪日外国人向けの企画が作られました。昔のきり体験と工場の見学を兼ねる「ふるさと民家」の「ふるさと民家のふるさと民家」の一括につくる料理体験。どれも、伝統文化と人がキーワード。世界中では「サステナブルツーリズム」という言葉が広がっています。迎える町も訪れる昔も持続可能な地域づくりにも寄与する。大開業地域だからこそ見る伝統・文化。その価値に気づき、歴史あり、外からの人を受け入れる、中山間地域の「伸び代」の一つだと考えています。

column



株式会社 mocha'chall(代表取締役:一井いづみ(訪日外国人向け宿泊プランナー))